



準備会

(新本庁舎低層部等一体の利活用協議組織準備会)

第2回

日時：令和7年3月17日(月) 10:00-12:00

場所：IDOBA

氏名	所属等	分野等
猪股 孝之	一番町四丁目商店街振興組合 理事長	商店街
氏家 正裕	定禅寺通街づくり協議会 幹事・まちづくり部会長	地域活動団体
内川 亜紀	札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長	事業収益性
姥浦 道生	東北大学災害科学国際研究所 教授	まちづくり・都市政策
佐藤 晶洋	国分町三丁目友和会 会長	近隣町内会
高山 秀樹	仙台商工会議所 常務理事・事務局長	商工・地域経済
馬場 正尊	東北芸術工科大学 教授	公共空間利活用

ほか、会議の論点に応じてゲスト委員を招集予定

<仙台市>

氏名	所属等	氏名	所属等
湯村 剛	まちづくり政策局 次長	二階堂 聡	都市整備局 次長
坂本 知靖	財政局 次長	甲野藤 弘憲	建設局 次長
杉田 剛	経済局 次長		

1 開会

2 前回のディスカッションの振り返り

3 ゲスト委員からのプレゼンテーション

4 ディスカッション

① 一体的利活用ガイドラインについて

- 全体構成について
- 一体的利活用の目標像について

② 協議組織のあり方について

5 次回開催案内・市民ワークショップ案内

6 閉会

	主な検討内容（案）
第1回 (1/8)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組み状況の振り返り ・本準備会の進め方について ・事例（札幌駅前通）によるスタディ（ビジョン・ミッション）など
第2回 (3/17)	<ul style="list-style-type: none"> ・一体的利活用ガイドラインについて ・イベント関係者への意見聴取 ・協議組織のあり方（案） <p style="text-align: right;">など</p>
5月～6月	市民参加型ワークショップ（フューチャーセッション）
第3回 (夏頃予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・一体的利活用ガイドラインについて ・協議組織のあり方（案） ・ビジョン、ミッションについて ・市民参加型ワークショップの結果共有 <p style="text-align: right;">など</p>
第4回 (秋頃予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・一体的利活用ガイドライン・協議組織のあり方 まとめ ・協議組織のメンバー構成、位置付け ・ビジョン、ミッションの骨子 <p style="text-align: right;">など</p>

前回のディスカッションの 振り返りと論点整理

■内川委員のレクチャーに対する質疑応答

- 北3条広場で「北3条広場らしさ」や「札幌らしさ」を構築するにあたり、関わるそれぞれの人の考えがある中で、まとめるのは非常に難しかったと思うが、どのように対応されたのか
- 北3条広場を訪れた際に、赤レンガ庁舎を巧みに活かし「らしさ」が十分に表現されていると感じた。**仙台では何を「らしさ」として捉えて表現していくのか**、そのための基準をどのように設定するかを準備会では議論していくものと捉えている
- **札幌のプロセスは仙台でも参考にすべき**ではないか。特に、行政とまちづくり会社が柔軟に協議しながら、計画やガイドラインを現状に合わせて変更していく姿勢が、エリアの強みになっている
- 仙台と札幌では歴史的背景や都市構造で異なる部分があるが、他の地方都市に比べると似ているので、**札幌駅前通の取組みプロセスやビジョンは非常に参考になる**。その際に、新本庁舎を活かして「らしさ」を構築することは一つの方法と考える
- 仙台市民の多くは定禅寺通や市民広場等でイベントが実施されていることが当たり前になっているように思うが、その市民を**どうすればまちづくりに巻き込むことができるか**

■一体的利活用のビジョン/ミッションに盛り込みたいキーワード

- **仙台ならではの祭り**があることは他都市からも評価されており、「仙台らしさ」の核として活用できるのでは。多くの方が思い浮かべる象徴という意味で、**定禅寺通や勾当台公園、市役所周辺という場所と連動した「らしさ」を構成**することも考えられるのでは
- 「仙台らしさ」は、**現代的な取組みと歴史的要素の融合**では
- **「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」**が示す理念として、**「交流とゆとりを楽しむ空間づくり」**や**「みんなで育む仙台の庭」**というコンセプトがあるので、それをベースとしては
- 一体的利活用エリアとメディアテークなど、**拠点間のつながりや関係性をどう育むか**ということも視点としてあると良いのでは
- 一体的利活用エリアは商業と住宅、官と民、都市と緑、東北全体と仙台など、さまざまなものが交差する場所。**様々なモノやコトの交差を積極的に促していくこと**が必要ではないか
- **「市民によるチャレンジ」と「仙台における新しい目的地」**。チャレンジという言葉は、一体的利活用の検討が始まった当初からあげられており、このプロジェクトを象徴している。都市を象徴する新しい目的地とするために、キャラクターライズによって駅前など**他エリアとの差別化**も明確になるのでは
- **未来志向**で取り組む視点を打ち出していくと良いのではないか

■ガイドラインに盛り込みたい項目について

- 一体的利活用エリアにおいては、**整備を実施した背景や推奨したいレイアウト等について明示**するべきではないか。想定しているのは定禅寺通や新本庁舎との一体性を創出することだと思うので、例えばつなぎ横丁をバックヤードとして使うことはせず、**広場への動線確保を位置付ける**ことなどが考えられる
- 一体的利活用エリアの中でも、**デザインのコントロールをするエリアと自由に使うことのできるエリア等で分けて使う**ようにしても良いのでは
- **メインストリートは一番街四丁目商店街から新本庁舎までの賑わいの軸**になると思う。一体的利活用エリアは公共空間であり、デザインやクオリティを完全にコントロールすることは難しいと思うので、**エリアによって分ける**ことも考えられるのでは

ゲスト委員からの プレゼンテーション

ゲスト委員ご紹介

氏名	所属等	備考
菅 真良	株式会社ジー・アイ・ピー 専務執行役員	コンサートをはじめ全国規模のイベントを企画・開催
佐々木 和之	株式会社ユーメディア 地域ブランディング事業部 執行役員	仙台を中心に地域に密着したイベントを企画・開催

プレゼンテーション事項

- ① 他都市/市内他エリアから見た優位性
- ② 想定される一体的利活用エリアの使い方
- ③ 利活用にあてって考慮すべきポイント

ディスカッション

これまでに示された目指すべき姿・イメージ
パスをベースに、より伝わりやすいものと
するために肉付けしていくことを想定。

- ① **ビジョン・ミッション**を議論しオーソライズする場
※（準備会において案を検討）
- ② **ビジョンに基づくガイドラインを承認**する場（策定、改編時）
※（準備会において骨子検討）
- ③ **運営事業者がビジョンやガイドラインに従って進む際に
生じる運営課題について共創的に解決を目指す検討の場**
- ④ **回遊性を高める地域連携のための情報共有の場**
- ⑤ **年次報告・成果確認**
（エリアの新たなチャレンジの市民・世界への発信など）

札幌市北3条広場 利用の手引き 目次

Intro	はじめに	1
Vision	1 広場の目標像	2
Outline	2 広場の概要		
	1) 広場の施設概要	3
	2) 広場空間の利用	4
	3) 設備の使用	5
	4) 制限事項	6
	5) 管理責任、免責及び損害賠償	7
	6) 関係法令の遵守	7
	7) その他	7
Guideline	3 活用ガイドライン		
	1) 広場の目標像に対する配慮	9
	2) 制限行為の有無と対応	9
	3) 会場レイアウト	9
	4) 安全管理に関する配慮	12
	5) 周辺環境に対する配慮	14
	6) 衛生管理に関する配慮	15
Process	4 広場の利用の流れと申請書類等		
	1) 広場の利用の流れ	17
	2) 利用を取消する場合・変更する場合	18
	3) 利用にあたってご提出いただく書類	20
Format	5 申請書類様式集		
	1) 広場利用承認申請書	22
	2) チェックシート	24
	3) 作業届出書・車輛乗入協議書	31
Inquiry	6 問い合わせ先一覧	32

一体的利活用 ガイドライン 構成 (準備会が作成した骨子をもとに仙台市が策定)

A.一体的利活用の目指したい姿

利活用を促進するためのテーマ

B.一体的利活用の概要

C.一体的利活用の基本方針

運営のあり方・・基本姿勢、
事業者の役割、
協議組織の役割

空間のあり方・・空間整備、使われ方

利活用のあり方・・期待する利活用の内容

D.一体的利活用の手引き

利用の流れ、申請書類、チェックシート
.....など

札幌市北3条広場 利用の手引き・ 広場の目標像は3つ



大人の文化を 享受できる空間

創造的・文化的な活動や洗練された取組等
が展開され、さらに休憩スペースとして優
雅に過ごせる居心地の良い落ち着いた空間

札幌の美しさを感じられる空間

メインストリートである駅前通からの北海道
庁赤れんが庁舎の姿やイヨ並木等、
札幌を象徴する景観を活かした空間

四季を通じて 憩い楽しめる空間

四季の変化が明確な札幌の季節・
時間毎に姿を変える様々な表情を
活かした、一年を通して楽しく過
ごせる空間



利活用を促進するためのテーマ

キーマッセージ
10~15字

サブセンテンス
50~60字

これらは一般的に**セットで表現**される。

キーマッセージ

→心に訴求する（響く）もの

サブセンテンス

→必要十分な情報を届けるもの

例)

大人の文化を享受できる空間

創造的・文化的な活動や洗練された取組等
が展開され、さらに休憩スペースとして優
雅に過ごせる居心地の良い落ち着いた空間

北3条広場委員会での論点整理

「北3条広場委員会 論点の整理」より加工・抜粋

都心の戦略・目標(2009年時点)

●札幌スタイル / ●札幌のQOL / ●札幌のパブリックライフ / ●新たな文化の発信、ブランド・価値の創造・・・

位置付け・現状

●歴史観光資源である赤れんが庁舎の正面

・赤れんが庁舎へのピスタが象徴的（イチョウ並木が強調している）

●格子状の街割りと整然とした景観

・整然とした秩序と品格のある街並み、一方で場所毎の特徴を生み出しにくい

●うけつぎの軸の基点

・歴史的に重要な通り

●にぎわいの軸の一部

・駅前通のにぎわいと相乗効果、活性化の拠点

●道庁の庭の豊かな緑

・大規模でオープンな都心の緑地に隣接

広場のコンセプト (視点、要素)

①札幌発の「文化性」

→大人の文化を発信する

②官民の「一体感」

→一体の空間を実現する

③新名所にふさわしい「象徴性」

→歴史を未来に受け継ぐ（うけつぎの軸・賑わいの軸の交点/原点、パイオニア）

④シームレスな「連続感」

→ネットワークの核になる・「みちの一部としての広場」

⑤変化に対する「適応力」

→永く人々に愛される・季節・時間ごとに柔軟に使える

広場のマネジメント

論点①広場のマネジメントのあり方（キーワード：人材の確保・マネジメントの内容・広場管理制度のスキーム・エリアマネジメント）

利用内容・プログラム

論点②広場の活用と空間のあり方（広場の魅力と価値、公と民の連携）（キーワード：四季折々のイベント、中央の空間のイベント、音楽等のイベントによるブランド発信、日常的なオープンカフェや仮設店舗のワゴン設置）

空間のデザイン

論点③広場のアーバンデザインのあり方（広場のデザイン、地下・建物・通りとの連携）

提言

前提（仙台市総合計画）

（まちづくりの理念） **挑戦**を続ける、新たな杜の都へ～”The Greenest City”SENDAI～
（目指す都市の姿） **杜の恵み**と共に暮らすまちへ／**多様性**が社会を動かす**共生**のまちへ／**学びと実践の機会**があふれるまちへ／**創造性と可能性**が開くまちへ

位置付け・現状

<上位計画での位置付け>

●仙台市都市計画マスタープラン・地域別構想
杜の都を象徴する景観と文化交流・市民活動の場

- ・ **交流・賑わい軸の定禅寺通**や、多彩な**市民活動を醸し出す市民広場**をはじめ新たな賑わいが期待される市役所新本庁舎とその周辺、**商業・賑わい軸の一番町**などの多彩な空間が一体となって、**日常的な賑わいと憩いを創出する仙台の象徴**たるエリア

●勾当台・定禅寺通エリアビジョン

“交流”と“ゆとり”を楽しむところ—みんなで育む“仙台の庭”

- ・ 人々の多彩な**交流／ゆとりある**雰囲気／多様な主体の**協働**

<現状>

- ・ **空間**・豊かな**公共空間**、隣接する定禅寺通の**ケヤキの緑**
- ・ **利活用**・勾当台公園・定禅寺通において、**多様な主体**により**休日にイベントが実施**

これまでの検討事項

新本庁舎低層部等公民連携検討会:一体的利活用のコンセプト

- ・ 多様な主体が集い、新たな**チャレンジを育む**空間の創出
- ・ **シームレス**で**柔軟性**のある利活用スキームの構築
- ・ **公民連携**により**エリアブランディング**に貢献

一体的利活用で目指したい姿

①

②

③

④

...

基本方針

●利活用のあり方

- ・
- ・
- ・

●運営のあり方

- ・
- ・
- ・

●空間のあり方

- ・
- ・
- ・

これまでの議論のキーワード
(公民連携検討会、一体的利活用検討会)

第1回一体的利活用準備会で
挙げられたキーワード

目指したい姿

市民協働、市民のクリエイティビティ、
多様な主体、若者がチャレンジできる場、
学びや遊びの要素の濃淡、行政と事業者の連携、
市役所というコンテンツの活用、共創、
新たなチャレンジを育む、新たな価値の創造

ブランディング、メディア化、風景の象徴、
テーマ性を持ったコーディネート、
仙台をもっと好きになるアクティビティ、
まちの回遊性向上、駅前や他エリアとの差別化、
まちに賑わいをもたらす場所、行きたくなる空間

“交流”と“ゆとり”を楽しむ快適な空間、
市民の居場所、生活を豊かにする空間、
イベントが無くとも日常的に集まる

周辺関係団体との連携・情報共有周辺エリアと
相互に賑わいを波及

シームレス・使い勝手の良い空間、
周辺エリアとの連続感、手続きの簡素化

仙台ならではの祭り、市民協働、
新庁舎を生かす、未来志向、
様々なものが交差する、
市民によるチャレンジ

仙台らしさ、文化、歴史、
定禅寺通のケヤキ並木、
仙台における新しい目的地、観光、
これからつくるものと歴史的要素
の融合

勾当台定禅寺通エリアジョンを
ベースに考える（交流とゆとり
を楽しむ、仙台の庭、など）

周辺エリア・施設との互惠関係、
パートナーシップ
軸線を重視した活用、
濃淡のあるゾーニング

- ① 一体的利活用ガイドラインについて
 - 全体構成について
 - 一体的利活用の目標像について
 - 不足しているキーワードがないか
 - キーワードの強弱、優先順位の整理

- ② 協議組織のあり方について